

## システム・エンジニアとしての条件

今年('80)の夏は涼しい夏であった。マスコミは冷夏と称して報道し気象台の観測記録も開設以来の多くの記録を更新したようである。電力の需要はほぼ昨年なみで出水は多く、電力会社にとっては久しぶりに楽な夏であった。その反対に繊維関係、レジャー関係、農業関係などにとっては大きな打撃であったと思われる。

天気もいいのでわが家の周囲を散歩した。もう紅葉の季節に入っているのに、どうも色がもうひとつ冴えない。これも冷夏の影響だそうだ。

いつか、この寸談放談で拙宅の南側にある雑木林の松について書いたことがあった。冬になるとその数本の松のために、拙宅は午頃から日が当たらなくなるのである。一時は松食い虫が猛威をふるい、その雑木林の松も一部が枯れ始め、内心“しめしめ”と思っていたのであるが、その後町役場から派遣された職人の手で枯れた松は伐採焼却された。それによって、松食い虫の侵食が止まりがっかりしてあきらめていた。ところが、新しく2本の松が枯れているのを発見した。よく見るとわが家に影を落とす問題の松も梢が赤くなっているのである。さっそく、役場に電話で“松食い虫の侵食を食い止めるために、枯れかかっている松を切って焼却すべきである”と申入れた。ところが、今年はまだ予算がないのでできないという返事であった。やはり、今年もうらめしの松は倒せないことになった。

ある緊急印刷物の校正刷りが約束の時刻になっても届かないので、電話で催促した。先方の返事は“昨日が停電日になっていることを忘れていました。1日延ばしてください”ということであった。おかげですっかり予定は狂ってしまったが、停電日を口実にされると弱い。

世の中はなかなか思惑通りにはいかないものだ。

わが家も建ててからすでに5年たった。夫婦と娘1人のために間取も設計してある。ところが、妹のところへ世話になっている親父から“ぼつぼつお前の厄介になるからよろしく”と言ってきた。建てた当時はこういうこともあろうと考えたのではあるが、娘はそのうちに嫁にゆくだらうし、無駄な部屋を作ることになってはもったいないとも思った。結局は何とかなるさで考慮しないできてしまった。しかし、娘は居心持がいいと見えて依然

としてノンビリ居座っている。止むを得ず2階に1部屋増築することにした。

わが家の建築を施行した某社に事情を説明したところ、経営不振のため住宅事業から撤退したというのである。すでに約500戸の住宅建設を行なっているのに、修理や改築の需要があるはずで、それを一方的に撤退したではすまされまい。とんでもない会社と契約したもんだと悔んでみても後の祭であった。抗議した結果、修理・改築専門の工務店を紹介してよこした。軽量鉄骨構造のプレハブ建築で作ったので既設部分の図面がないと手をつけられない。某社の紹介してよこした工務店は、その図面をゆずり受けて相談のりますと挨拶にきた。一応こちらの希望を説明し見積をとった結果はなかなかのお値段であった。それはもともと増改築工事は割高になるのに、加えて既設部分の設計が2階に部屋を増設するような構造になっていないので、さらに割高になるということであった。つまり既設の鉄骨構造には手をつけられないので、まったく無関係に既設の基礎と壁に沿って基礎を打ち、柱を建てその上に“門”という字のように一部屋作るというのである。図面を見ているとプレハブ建築としてはモジュール化にも問題があると思われたが、言ってみたとこで一文の得にもならない。少なくとも増設があり得るといふ発注をしておけばよかったのに悔まれてならない。反省事項としては次の3つがあげられる。

- (1) 後々まで相談相手になるような信頼のおける業者を選ぶこと。
- (2) 増改築のやりやすいタイプを選ぶこと。
- (3) 将来の家族構成を想定し、それに合った間取りとすること。

以上の事柄はシステム設計に当たってもまったく同じことがいえる。システムを構造化しサブ・システムをモジュールの組合せによって構成し、さらに将来の条件や環境の変化を想定し、それに対応しやすいように設計しなければならぬ。また、それらを具体的に実行する人についてはそれにふさわしい人を選ぶということであろう。ということは小生はやはりシステム・エンジニアには向かないようである。

(M.M.)